



つがる西北五広域連合病院事業 からのお知らせ

～目頃から診療時間内での適切な受診を心掛けましょう～



「2～3日前から喉が痛い」、「なんだか熱っぽいなあ」そんなとき…
「日中は仕事で忙しい」、「平日は休みが取れない」、「日中は混むから嫌だ」
などと考えて、夜間や休日に病院を受診している人はいませんか？

●救急外来は、「命に関わる重症で緊急の手当てが必要な患者さんを一人でも多く救うための外来」です。

●正しい診察や治療を行うためには、「平日日中の診療時間内に病院に来て受診することが一番」です。

*救急外来は、平日日中のような専門医による診察や精密な検査を行えず応急的な処置となり、診療時間内の再受診が必要となる場合があります。

*自己の都合で夜間や休日に受診する患者が増えると、本当に救急医療を必要とする患者さんへの対応が遅くなってしまいます。

◆夜間や休日に慌てて救急外来を受診するよりも、経過を見ながら出来るだけ平日日中の診療時間内で受診することを心掛けましょう。



【発行元】

つがる西北五広域連合病院運営部

つがる西北五広域連合
Tsugaru Seihokugo Region Union

☎0173-26-6363

【つがる西北五広域連合医療機関】

つがる総合病院／かなぎ病院／鱒ヶ沢病院

つがる市民診療所／鶴田診療所

(ホームページ <http://www.tsgren.jp/>)

①夜間・休日の救急外来を受診すると？

夜間・休日における救急外来の受診は、一見便利そうに見えますが、次のような制限があることをご存知ですか？

- 命の危険性がある患者を最優先に診察するため、緊急性が認められない場合は待ち時間が長くなります。
- 様々な診療科の医師が日々交替で診察しているため、原則専門医の診察を受けることができません。
- 平日日中のような診察や精密な検査を行えず応急的な処置となり、診療時間内の再受診が必要となる場合があります。
- 平日日中に比べて診察料金の自己負担額が割高になります。



②『コンビニ受診』が増えると？

24時間対応のいわゆる『*コンビニ受診』する患者さんが増えると、命に関わる重症で緊急の手当てが必要な患者さんへの処置に影響を及ぼします。さらに、救急外来を担当する医師の負担が増大することで、疲弊による医師不足を招き、更に医師の負担が大きくなるという悪循環が生じることとなります。

重症で緊急の手当てが必要な患者に十分な医療を提供するためにも、日頃から平日日中の診療時間内で受診することを心掛け、夜間や休日における救急外来への『コンビニ受診』は控えましょう。

*コンビニ受診とは…一般的に外来診療をやっていない休日や夜間に緊急性のない軽症患者が病院の救急外来を自己都合で受診することを指します。

コンビニ受診
が増加



医師の負担
増大



医療環境に
悪影響が生じる



③救急外来を受診する前に

～相談窓口などのご案内～



- お子様の「急な発熱」、「誤飲」など急病で心配な時は…
「こども救急電話相談」:局番なしの「#8000」又は「017-722-1152」
(※毎日午後7時～翌朝8時まで対応)
- 救急に関する情報を知りたいときは…
「あomorい医療情報ネットワーク」ホームページ (<https://www.qq.pref.aomori.jp/>)
にアクセスすると、「症状に対応できる医療機関」、「休日夜間当番医」や
「こども救急ガイドブック」などの情報が見つかります。